ロッキーのHP→www.isahi-net.or.jp/~sd5h-mksm/rockytop12.html

PICKIN' SINGIN' GINZA Rocky Top かわら版 第99号

2006年3月3日 発刊

Yeah! マネージャー No.58

謎のフォロー事件の巻　作 チフ井上

拝啓 May

ロッキーHP→ www.liverocky.com

3月、別れの季節だったりします。卒業式で忘れられないのが大学の卒業式。武道館でやりました。ほとんどうとうとしてた俺は学長の話の途中で起き出した。「社会に出たらシステムに組みこまれるのではなく自分の力で自分の個性でこの世を渡っていって下さい!」それがずしーん!と胸に入った。「よーし見てろよー!」結果はともかく個性的に生きてるとは思える今日この頃である。

次号でついに100号!

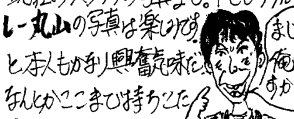
マスター田口の不幸デラックスコーナー

ディーンエイジャーメニューそして間違った食知識の巻〜

先日ロッキートップの新年会があり、みんなでスマに飲んだ。もちろん田口マスターのおごりということもあり、みんなはりきってお腹を空かせて来た。しかし一番張りきっていたのはマスターで、とにかく仕切りまくった。

今月のムーンシャイナーに

ロッキートップ25周にあたって…というタイトルでチフ井上が一筆寄せているのが掲載されます。「どこへ行くブルーグラス」のコーナーを凝縮したような内容ですが、ロッキートップ25年のうち約半分の13年関わっている自分の体験と、聞いた話、先代マスター小柳さんの話などをもとに書いています。楽しんで読んで下さい。写真もいくつか載ります。懐かしいモーニングブローリーの写真から現在のスタッフの写真まで。中でもグリルチフのスタンレー丸山の写真は楽しかった。



と本人もかなり興奮気味に。なんとかここまでこぎつけたえているロッキートップの歴史をふり返りつつ、今後も続いていくことを期待してください。マスター田口の目標は50周年。その時まだ俺と丸山がいるとすると、マスターは73才、俺は63才、丸山は53才ということになる。

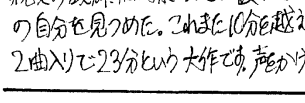
チフ井上 自主制作CD発売中!

「どこへ行くアメリカ」という2曲入りシングルです(¥1000)。9.11以来のアメリカや世界の動向がやたらと痛まし、歌にしようと思いたち、自分の中にあるアメリカを吐き出したところ大学ノート10ページにも及んだ。それをそぎ落として、1つのドラマにしました。10分を越える曲です。カップリングの「ルーツ」は親父の故郷福岡県の思い出、そして2人からの自分を見つめた。これまた10分を越える曲で2曲入りで23分という大作です。声をかけて下さい。

どこへ行くブルーグラス (27)

わたくしチフ井上がロッキートップに入り、ブルーグラスと出会ってからの数々の思い出をたどりながら今後ブルーグラスがどこへ行くのかを考察するコーナーだ。

あ、箱根ブルーグラスコンベンションの巻 その1…初めてブルーグラスフェスに行った1992年、バンジョー越田にと勧められ、その内容もよく分からないままに、9月からチフになることたし「按摩ついでに出よう!」と得意の吉田拓郎の「結婚しようよ」を**ブルーグラスリスト外 他は0**の越田にバンジョーを弾いてもらって出演した。ことのほか受けが良かったことに気をよくして(順位は8位くらいだったが)翌年も出た。次は日本のフォークの話で仲良くなった**ドブロの小島さん**にドブロを弾いてもらいただき真剣に自分のオリジナル「心の宇宙」を演奏した。(この頃この曲はバラードだったが後にフォークグリラボーイズで2ビート、ハテルボに生まれ変わる)それが何と**2位になって楽器をもらった**。これまた気を良くして毎年のように出るわけだが、だんだん分かってきたこと、それは**ブルーグラッサーしか分からないマニアックなつぼ**にオーディエンス受けがいいということだ。しかしそのブルーグラッサー受けという観点がなかなかつかめなかった。初めてコンベンションに出た時(1992年)の優勝はバンジョーの二人羽織り(**山口さん&佐藤さん**)だった。実に見事で「この人達本当にバンジョーマニアなんだな…」とため息。翌年の優勝は**国本さん**だったかなーて、例の「箱根 箱根ー箱根の山でーブルーグラスーハイロンサムでー」(間違ってたらごめんなさい!)とにかくその笑いのつぼが初めのうちは分からなかった。コンベンション界の強者といえばまずは**早川流吉さん**。印象的なネタはステージに後転かり「アールズ・ブレイクダウン」を弾きながら右足で毛筆をはさみ墨汁をつけ、書き初の用の長い紙に「努力」と書いたネタ。そこで**スラッグスチューン**というある意味教科書的な曲を選ぶあたりが**そのツボ**なのだが、それに気づいたのは数年後のことだった。またリンボーダンスの要領で火をつけた縄の下をくぐりながらバンジョーを弾きながらくぐり抜けるというネタも。その時は「バンジョー弾きながらなんてすごいな」とのみ気に思ったのだが、そのツボは「**ファイアー・オン・ザ・マウンテン**」も弾いていることだったのだが、その曲を認識するのもしばらく後のことだった。強者その2は**中沼浩さん**。バンジョー2台の**平均神研究会**というグループ名で謎の不協和音を展開し「**クロマチックがどうだ、こうだ**」という前置きをして審査委員の**サブさん**のとこにステージから降りて行ってバンジョーを弾かせ、みんな爆笑なのだが、その意味がさっぱり分からなかった。やがてバンジョー奏法のオールドスタイルを象徴する**クロマチックフルーズ**というものがあることを、だいぶ後に知る。といった具合だ。強者のそのうは**川俣軍司さん**。この人の芸は大変分かりやすく、ブルーグラス素人にも理解できる微笑ましさがあった。つづく



Pick Up Live!

New Band

3/6(月) ザ・アッシュブローブ
スマのアイリッシュバンドです。ギネス片手に盛り上がろう!(ブルーグラスのアッシュブローブとは何の関係もありません)

3/20(月) Nude Voice
男女デュオのアコースティックポップス。南佳孝にバンド名を命名された。非常に心地良い歌とサウンドです。しめちゃんの記事が日刊現代に掲載されます。

スペシャルナイト!

3/4(土) For Lips、ふたり乗り(from京都)
2度目のロッキーライブ!今ブルーグラス界を賑わせている話題の女性グループです。ふたり乗りはCDも出たばかり。フレッシュな彼女達に会いに来て下さい。

3/13(月) ヒデキ(from)with 九郎(Mandolin)&The Band
ナッシュビルでケニーベーカーやクリスシャーマンらと活躍しているヒデキ君の凱旋!帰国ライブです!本場の音を味わおう。予約受付中!良い席は早めに!